

研究協力をお願い

札幌孝仁会記念病院では、下記の臨床研究（学術研究）を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

課題名

胸骨プレートと胸骨ワイヤーによる胸骨閉鎖後経時的胸骨癒合スコアの比較検討

1. 研究の対象および研究対象期間

- ・対象
2022年5月以降に当院で胸骨正中切開手術を受けられた方
- ・研究期間
2022年5月1日～2024年3月31日

2. 研究目的・方法

- ・目的・方法
胸骨正中切開後の閉鎖方法として、従来胸骨ワイヤーによる閉鎖が行われてきました。近年、胸骨をプレートを用いて閉鎖する方法が開発され、すでに20年以上使用されています。欧米での無作為比較試験ではワイヤーに比較してプレートは胸骨早期癒合、痛みの軽減、上肢の運動機能の改善に有効であったという研究結果が示されています。現状日本では、胸骨正中切開に伴う合併症のリスクが高い患者（糖尿病、閉塞性肺疾患、再開胸手術、両側内胸動脈使用手術、元々麻痺を有する患者など）において保険適応として使用することが可能です。本研究では胸骨正中切開後の患者のCT画像を解析し、胸骨癒合の程度を点数評価することで、プレート閉鎖とワイヤー閉鎖の胸骨癒合の程度を比較し明らかにすることが目的です。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

- ・情報：病歴、手術後合併症の有無
- ・試料：術後定期フォロー時のCT画像

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。
また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

研究責任者：

所属：社会医療法人孝仁会 札幌孝仁会記念病院 心臓血管外科 氏名：渡邊 隼

住所：063-0052 札幌市西区宮の沢2条1丁目16-1 電話番号：011-665-0020

また、本研究の計画、実施、発表に関して可能性のある利益相反 (conflict of interest) はありません。